

(19) Japanese Patent Office  
(11) Patent No. Sho55-54926  
(43) Publication date: April 22, 1980  
(54) Turbine polisher  
(21) Patent Application No. Sho53-129096  
(22) Application date: October 19, 1978  
(72) Inventor: Nakazawa Satoichi, Kadoma city  
(71) Applicant: Matsushita Electric Corporation, Kadoma city

1. Title of the invention

Turbine polisher

2. Claims

A turbine polisher, comprising: a connect pipe connecting to electric appliances such as electric cleaner, a turbine car rotated by a drawn air current, a turbine chamber having said turbine car therein and a suction nozzle installed at a portion thereof, and a rotatable wiping body driven by the axis of the turbine car, wherein the suction nozzle is in fluid communication with the space where the rotatable wiping body is mounted.

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開  
⑫ 公開特許公報 (A) 昭55—54926

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup> 識別記号 庁内整理番号 ⑭ 公開 昭和55年(1980)4月22日  
A 47 L 9/04 6748-3B  
11/16 6354-3B 発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑮ ターピンボリッシャー

⑯ 特 願 昭53—129096  
⑰ 出 願 昭53(1978)10月19日  
⑱ 発明者 中澤敏一

門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内

⑲ 出願人 松下電器産業株式会社  
門真市大字門真1006番地  
⑳ 代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

明細書

1

1、発明の名称

ターピンボリッシャー

2、特許請求の範囲

電気掃除機等に接続する接続パイプと、吸引気流で回転するターピン車と、上記ターピン車を内蔵し、一部に吸込ノズルを設けたターピン室と、上記ターピン車の軸により駆動される回転磨き体とを設け、上記吸込ノズルを前記回転磨き体を配設した空間に連通させたことを特徴とするターピンボリッシャー。

3、発明の詳細な説明

本発明は、電気掃除機等の吸引装置に接続して使用するターピンボリッシャーに関するもので、ターピン車により変換された機械力により、回転磨き体を回転させ、更に回転磨き体により拂き飛ばされた塵埃類を電気掃除機等の吸引力で吸引することを目的としている。

従来のターピンボリッシャーは、吸引された空気が通る通路が2つあり、一方はターピン車内を

2.  
通過する通路、他方は回転磨き体近辺に通じ、塵埃類を吸込む通路であり、この2つの通路の切替調整により、塵埃を吸込む必要があり、面倒であるだけでなく、磨きながら塵埃を吸込ませようとすると空気流が2つに分かれるため、ターピン車により変換される機械力が低下し、回転磨き体の回転数が低下するという欠点を有していた。

本発明は、上記従来の欠点を解消するもので、以下その実施例を添付図面にもとづいて説明する。図において、1はターピン車5を内蔵したボリッシャーの本体、2は本体1の外周に固着したバンパー、3は電気掃除機延長管等の吸引装置に接続する接続パイプ、4はターピン車5を内蔵したターピン室、6はターピン室4の一部に設けた吸込ノズル、7はターピン車5の両側に延長したターピン車軸、8はターピン車軸7の両端に固着されたウォーム、9は各ウォーム8と連動するウォームホイール、10は各ウォームホイール9に固着された回転軸で、他端にはそれぞれ回転磨き体11を着脱自在に固着している。そして、上記回転磨

き体11の回転方向は、それぞれ逆回転し、正面から見ると、内側に巻込むような回転方向にしてある(図面に回転方向は図示)。この回転磨き体11を配設した空間13には前記した吸込ノズル6が連通している。12はターピン車輪アを軸支する軸受であり、ビス等でターピン室4に固着されている。又、回転磨き体11には、ブラシ、フェルト等を設ければよい。

上記構成において、接続パイプ3に掃除機を接続すると、吸込ノズル6から空気が吸込まれ、上記吸込ノズル6で絞られた噴流がターピン車6に衝突し、ターピン車6を回転させた後、接続パイプ3を通り掃除機に吸込まれる。この時、ターピン車6の回転は、ターピン車6と固着したターピン車輪アから、ウォーム8により減速され、回転磨き体11に伝達される。この時、回転磨き体11の回転により、塵埃が、まき上げられるが、これら塵埃は回転磨き体11の回転方向が互いに内側に回転するため、本体1底面中央に寄せられ、本体1底面に設けられた吸込ノズル6により吸込ま

### 特開 昭55-54926(2)

れる。この場合、使用しているターピン車6は、塵埃が通過しても使用できるダーティターピンを使用しているため、家庭で発生する塵埃に対しては、何ら支障なく回転力を出すことができる。

このように本発明によれば、掃除機等を接続すれば、回転磨き体を配設した空間に吸込ノズルを連通させているから、簡単に床等の磨きやブランシングによる汚れ落としをしながら、同時にそこで発生した塵埃を吸引することができるという効果をしているものであり、従来の問題を完全に払拭しているものである。

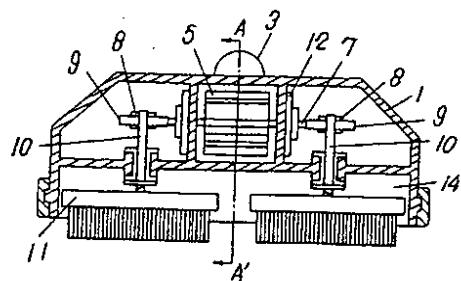
#### 4、図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例におけるターピンボリッシャーの正面断面図、第2図は第1図のA-A線における側面断面図、第3図は第2図のB-B'線における断面図である。

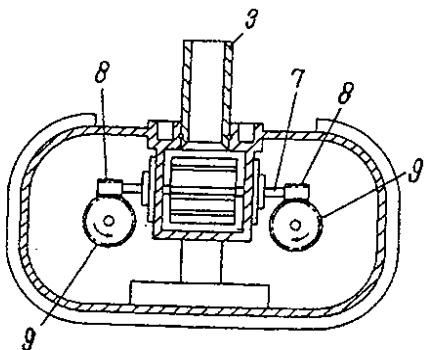
1 ……本体、3 ……接続パイプ、4 ……ターピン室、5 ……ターピン車、6 ……吸込ノズル、11 ……回転磨き体。

代理人の氏名 弁理士 中尾敏男ほか1名

第1図



第3図



第2図

